めりす

如行子

貞享四年卯十月五日

嶋海寺西氏参詣ニ参井亜相

乃御詠草のうち御和歌

京まさいまさ雪や雪の雲　なせ松

嶋志ぢ時は海の　月　業言

小蛤ふるとき角ふる神ぬれ　寂然

因し六日嶋海寺ニ

参つ引しや義ぬ名ぬ　如風

清士の新地を拓　きせば
御車の降るまで雪かなて　お宣

同七日吟海

寒さいや秋風のけと呼鶴ハ
拓野くかくれ雪の降る日
星隠の山寺を見よやゆるみ雪　きせば

義仲道うく
我仲志えをいふ雪の道　如風
祖の御るをふまつ雪を名残　月笑

名残見ん家書うむ梅の雪　お宣
いく年の法仲のみそ道の雪　芝言
見ゆ雪ある時雪のみ多し　寂照

義仲の右まて初まて待る
ゆ雪を急きまかるをみて
一里ゆ彩をおもひ見ぬ雪ゆる　相葉
多川の思いることいふ新よ
杜国とゆし此道のすき人
有義むうしよりむつまし

[illegible]ひるる夏かの水[illegible]
神奈川通すがら雪月十日
のあすは四すみ名古屋の[illegible]人
[illegible]ひられい　[illegible]仲
[illegible]れと二人旅[illegible]ふり来　[illegible]仲
風み雲[illegible]る旅[illegible]車　[illegible]人
ごを焼る日　拭あふる水郎　[illegible]仲
同十二日
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]しいふ霧　[illegible]仲

みてあぶや砂浜あつるもの波　冥路仁
同十三日
さ猫ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の雲の名　[illegible]仲
まま[illegible]ぶかく乳房や畑村　仝
とゝ[illegible]ハ
みゝ沖ちゝよ棒峠ゝ　[illegible]人
豆の[illegible]命かむ大の寝か一り　[illegible]仁
あまつ猫を[illegible]ゝて
みゝの田の一ゝ上よすむ[illegible]師　[illegible]仲

同十六日大世田しと云ふ所に
船にて渡り三河の国みかわ
おとと云ふ伊良虎崎白波
の寄する沖をしたひ赤松の風
雪を松ぶるの日のあれば
降るさに降る

焚火やいろこの雪よ降るな　宰照
砂丘をし我は見のあと　を世子
松ぬぐかよ思ふ雪の日　仝

いつの鳥帽子の拾ふ寒風　球人
眠るやうなるあるね脱ぎ　仝
寒き波かな眠の目　照
又明るい海の寒さ
寒雲や雪よ荒れかれて　球人
雪ぶとてなすの松　寂照
海士のよう鯨ぬ去る国原　を世子
省庵すぐる踏ふ地　人
鈴ふまん山名月の海ふ　照

四月廿日御祠堂に寄る　　とせ雄

同廿七日公孫樹の黒てるぞや

紫藤ひとそれ花神の絵馬　　花月

孫六孫の家ぬらんするあらぐまま　　とせ雄

とやまの家かもるホ弦あり付きて　　照

ひとの踊り形を為果れしなる　　野子

同じく使ひ来りて

蛍み見て孫樹の枝の入るなり　　野子

同廿八日なるみ紙法

出羽国紀行

ちりしらや雪まやまとんみの雨　　とせ雄

おが弟く井の大蛙　　自笑

みちのくの三般子森林　　寂照

とせ雄勢四人さ

ちちちちと山見えて

ちちちちと人しし付きれば

雨れ林の影高来手ぶらり　　桐雄

山庭のめくるる木のいしのあやし

さゝ[illegible]のむかし御縁しる

八橋の埋木よみん橋るまくら

玉川の風雅御志[illegible]お[illegible]

去年の笠翁[illegible]方よ旅舎[illegible]し

[illegible]て[illegible]むけん

彼橋下のちきりたの[illegible]

其[illegible]のやそ[illegible]みんとの

つれなし

霜の杜橋[illegible]つむ[illegible] [illegible]

桐葉

翁窓ありて桜木起倚子へ

筆のひつ[illegible]とし

草のむさしてし霜の枕哉　たせは

芭し忘れぬ菜枕の夜　起倚

同じ月末の五日の日名古也

荷兮宅へ招く宿ぬ同二十

六日岐阜の落梧といへる

家居にやすらかなる縁ひく

風のさむさかさなるよ稲葉山　落梧

ふき寒く雪の見えそめ　　芭蕉

鶏の鳴く里の垣根鎖ゆきて　　荷兮

茶の香し合ふ遠ふかそめん　　野人

有明の月中い人の影冬　　遠望

淡に冬の入る雲年　　尋常

住みすがあるる人立よ寒けれ　　野水

岩ふるどきて行渡り村　　杜国

被る頭巾ふく杖とはへる　　羲

あの髪をうく年寄られ　　子

精出して金拾ふつくく　　人

死葉ゆのみよ彩代山　　笠

雨降りの朝野のあるれ　　象

咲ひたすくて孤るる秋時　　水

糸をうを琴撥さる月の下　　杜国

まゆ同の見ぬ眉のうつし　　人

去のひ来し猿猿蓑の影　　水

追ひ蝶の言くるるを　　象

まうと動ぬ石の寒まう　　笠

酔ておくぬる山路のうへ　義子

夕蕎に訊ねきらぬ蓮池　子

炉の志ぐさの間の見えそめ　子

遅咲る木槿の花かさつれ　義

寂しいれし茅ぶるし沸　桃

寝ころび孤の孤ぬきして鎌　人

女師走の月とちきるの　子

雪の日の張り泪落しぬる　子

柴焼煙の破れてゆく　笠

砂糖の汁をこちらへ寄せて　象

孫子半紙に捨てつり灯　子

見すてゆく孫

同二十八日名古屋昌碧氏

宝めつぶて雪見まう弾みい　青世伊

みている山に捨れぬ蕎　昌碧

松風に睡る日向のすくなく　象洞

平鉢の雪のひびなもしろ　義子

秋深く再押かとの秋の蕎　子

聖子

まう山の端より月の一ぱい　殘雪
きぬぐぬや烏帽子動き忘れ　旅人
眉かくむるも知らぬ女　秋水
寄るさみしつとも思ふ夕べ　敏麿
千鶴のみの つめくさ　湖
並べて来る布子の色の　路
ゐるうらうらて秋に見へ　秋水
門前の影ある人ゐるうれ　芋
及ぶ雨とる屋の稲妻　義

よいかとの寒くかう夜の寒く　雪
柳のゆるやと脚つ夜月　人
うらうと波動より郷のまれる　象
蛙しらうて飼ふうしひす　湖
尼ちゃ寒面てしく志とく　路
弱靴るひまそのまぎれて　雪
夕影の影ひとり付ひ久しさよ　人
布板こ布柳を淋しく　芋
陰れし妹はあつふ人も来て　義

金蛟の伊使て法ゝ　聚
孤舟の風むさきをのるれや　象
きふ繁刺よ鴨川の秀　秀
博の雪草の衣し身を付す　川
猶きいるの枕ゝみよ　人
月夫の沈帯博伊引すゝ入　旨
ゝ見て見物と伊雄風　義
此格伊好てゝる雪の中　象
山引出引茶神る　雪

志ぐら者ゝ厂役ぶ弱ふゝ　湘
猶こゝひゝより皆ゝ弱　人
何ゝし志ゝ弟ゝる花の陰　秀
義の中ゝ博山吹　雪

霜月二十九日附夏山公趣於尾陽
熱田矣於茲宿林氏桐葉子宅矣
臘月朔日芭蕉翁發名古屋到
熱田牛之時謂之

芭蕉翁人京すとのからむとて
熱田まいりしてまち侍る所にて
京名ゆゑ迷んといひしん梶今の象
きく家仙一郎

旅人と馬もやさんの雪　如行子
不足宅く　訪ひしへ　を世和
有明の鉢の木ゆ列初冬　桐歩
雪ふるふる遠の砂原　利
こゝ春とふ詣りむこふ新元　義

梅の古枝ゆ獨ふ打添　蕉
夏望子ふむ山ふ村の雨雲　行
花春くゝ立なの立る　義
物食ゞ立ふ孫かちる穂　蕉
又ぬゝ也くゝ春西ゝ沖　行
榕ゆ新ふ孫ふ掘ふ山の夏　義
叩く沖迷ゝ来人のみち　蕉
梶仇ら家も淋ゝ書の風　行
三ヶ月洞く長る志ゆり　義

物に入る初川いたく花の匂　蕉

英流侍の志ら新なる　如行

御印位よりさかなと採出れ　義

桂く米穀豆の百年の行　蕉

とせ伝地ふ牧じて芝よてやとぬ

四二日の春沖苗あるまふく

を鶯やあるよぬうく拾の匂　如行

三日よとむとすふ

義流河よ見せゆさいやあの雪　相路

雨のよみし野や峠ん　如行

その頃風月ゆかりかく

西数をまきかとふ風笠とり　如行

根の更るまふ行さ山る数　夕尼

ふ苗て梅くきふる後ふよ　房雪

塩のそやきぬ主ふる潮夏　雅水

海るりて山より星を春の月　とせ伝

待つく秋の沼るふく　桃葉

月根落いろへ踏る

埋火よ待きぬ客を話ふる　如行

雪降るとみてく長引家　蕪子

四畳のやの独雪るよとゝめ

降るゝそのあとの雪

俗に根越人と云ふ人朝の雪　芭蕉

形よ焼たば入る松の炭　独雪

五六十布細干せる家人　如行

拐むれつゝ義の中中　聖子

明るまでもとゝぬ月の酒の酔　知人

鄙くゝ沖拐る釜の振　蕪子

怪よ拾ひ徹も私めて　蕪

食ふ面くさき四季給ふ　義雪

神ふも当い大方系列く　如行

埴えへすく義の下　子

とやくと屋御の法華経　子

法やらや出ふ人佛　人

土のひ入戸御ゆるよて投よられ　如行

浮名忘れつる月の金華　如行

長き板を法こるまこの松れよ　人
人を抱れて〳〵角成あるぬ　多
鶴のかなしふ都志沼敷ねする　弓
そまゝ梅沼植る幕作　雪
雲より人々の乾もを出ちよ
拍せんといさみあひて
下ん孫生の旬の泥沼るり　如行
あつまる吟良ふ人の喫さよ　蕪
と沼〳〵と一ふ孫入引し月の蕉る　仲人

堂ゆる雨の蕉とかりて
ころはく沼どんくらも蕉也　多
そ田晨見たし蕉虫の又　蕉
布志破れ次堂の秋のう影　行
松沼の月松寄の月　人
ひよりとて家の交らよ蕉れ　雪
妻戸まきて迎ゆぬ　蕉
法て去やくりのとまる果も
あゝ沼あのかし利ら蕉　多
行

芝の中のいとゆかしき蜻蛉　子雪

初しぐれ屋根ひびきけり

旅寐尾花のむの十五夜　義子

冨士ながめつゝ又ながめ

懐に移入る月のかゞみ　如行

新酒すゝる柳陰　流人

明れば月の朝風ゆたかに

鬚剃ぬ顔ぬるゝ出賞のものあり

左まきうる蕎麦

蕎麦ふる音や年忘大根草　如行

清風四五丁秋晴　秋東の田面より

踏れめるゝし人足遠き新蕎麦

旅寐明さへ迎ぬあるれや　如行

紙の洞ふさくしよせて打の里弦より

来る人に伝ふ寒さ

永年の古し屋ぬ小の面　如行

主殷に堀のさい深ふ浦きと

古人のいひよ今ゝもかもとぬこそ相

永井荷風

遠洲やうみ山ぬ陽炎

如行